



# 炎 628

2014.8.24 (SUN) 14:00 横浜平和と労働会館5階

横浜市中区桜木町3-9 (JR 桜木町駅より徒歩5分)

■主催：NPO法人神奈川県日本ユーラシア協会

■お申し込み・お問い合わせ：

Tel/Fax: 045-201-3714

E-mail: eurask2@hotmail.co.jp

■当日連絡先：Tel 080-6700-5301 (関戸)

※DVD上映は無料ですが、黒パン・お茶代として300円いただきます。

今年も8月15日がやって来ます。戦争と平和について、毎年考える集いを開催してきましたが、今年は映画「炎628」DVD上映会を行います。

題名の意味が分かりますか？

これは当時の白ロシア（現ベラルーシ）共和国でナチスドイツ軍によって村民が皆殺しにされ、焼き尽くされた村の数なのです。

第二次世界大戦中、最も多くの死者を出した国は旧ソ連です。その数は何と3000万人にも及びます。そのほとんどが独ソ戦によるものです。戦後、アメリカでさえ「第二次世界大戦の勝利はソ連人民の犠牲より得られた」と分析しているのです。日本の死者は約300万人。日本の10倍にもなります。当時のソ連国民の4人に1人の割合で死者を出したのです。

その事実の一端をこの映画で認識しましょう。

(関戸)

## 映画紹介

1943年、ナチス・ドイツ軍占領下の白ロシアの村。砂山でライフル銃を拾い、パルチザン部隊に加わった少年フリオラは、戦闘に行けず、森の宿営地で知り合った少女と行動を共にする。空爆を逃れて二人で家に帰り着くと、そこに母と妹の姿はなく、村は死体の山となっていた。少年が銃を拾った姿を目撃され、報復として村ごと滅ぼされたのだ。

少年は自責の念に襲われ、生き残った村人のために食糧を集めようとパルチザンに同行するが、狙撃され、仲間は次々と命を落とす。

一人逃げ込んで匿われた別の村では、ナチス親衛隊特別行動隊が村人たちを集め、狭い教会に閉じ込めて火を放つなど残虐の限りを尽くす。恐怖の極限に置かれた少年の顔は、老人のように変わり果てる一。

苛酷な運命に翻弄される少年の目を通して見た戦慄・恐怖・悲劇がリアリティと重量感をもって描かれる。歴史が逆転する凄まじいラストシーンまで必見（原題「来たりて見よ」）。1985年モスクワ国際映画祭金賞作品。

■監督：エテム・クリモフ ■脚本：アレシ・アダモヴィチ/エテム・クリモフ

■撮影：アレクセイ・ロジオーノフ ■音楽：オレーグ・ヤンチェンコ

■出演：アリオージャ・クラフチェンコ/オリガ・ミローノワ/リュボミラス・ラウツァヴィチユス/ウラダス・バグドナス/カジミール・ラベツキー/ヴィクトル・ロレンツ ■1985年ソ連映画 ■2時間23分/カラー/日本語字幕付

